

資料 2

各病院の主な取組み

各病院において、次のとおり、府立の病院としての役割を果たすための取組みや、医療課題に適切に対応するための診療機能の充実に取り組みました。

<27年度の取組み>

◆ 急性期・総合医療センター

- ER部の設置など、南大阪地域における救命救急の中核的医療機関として、二次救急患者を含めた新規入院患者の受入れ拡大
(救急車搬入患者数 27年度 8,112人 [26年度 6,582人])
- 地域がん診療連携拠点病院として、専門的な質の高いがん医療の提供
(がん手術件数 27年度 1,564件 [26年度 1,529件])
- 急性期から回復期までの一貫したリハビリテーション医療の提供
(一般病棟のリハビリテーション実施単位数 27年度 111,618単位 [26年度 101,392単位])
- 平成26年に設立したIVRセンターの充実
(IVRシステムを用いた治療件数 27年度 337件 [26年度 285人])

◆ 呼吸器・アレルギー医療センター

- より高度な医療の提供のため、ICU、HCU(高度治療室)を増床し、周産期医療充実のため、NICU(新生児特定集中治療室)を開設
- 新たな気管支喘息治療である気管支サーモプラスティ治療を開始するなど、気管支喘息に対する専門医療の提供
(気管支喘息患者の新患者数 27年度 790人 [26年度 763人])
- 気胸の診療について、診断から治療、そしてその後のケアまで内科・外科医が連携して診療を行う気胸センターを開設

◆ 精神医療センター

- 麻酔科との連携による修正型電気けいれん療法の実施
(修正型電気けいれん療法実施件数 27年度 381件 [26年度 349件])
- 医療型障害児入所施設として、発達障がいの確定診断を実施
(発達障がい診断初診件数 27年度 283件 [26年度 242件])
- 関係機関との連携による多職種での訪問看護の拡大
(訪問看護実施件数 27年度 5,328件 [26年度 4,765件])

◆ 成人病センター

- 難治性・進行性・希少がん患者への最適な集学的治療の実施
(難治性がん手術件数 27年度 986件 [26年度 912件])
- 患者一人一人の症例に最適な治療法の選択や低侵襲ながん手術の実施
(ESD内視鏡的粘膜下層剥離術 27年度 730件 [26年度 649件])
- IMRTのバージョンアップによる放射線治療の高速化
(放射線治療(IMRT)件数 27年度 11,035件 [26年度 10,651件])

※IMRT(強度変調放射線治療):放射線に強弱をつけ、腫瘍の形状にあわせて放射線を集中照射することで、周囲の正常組織への照射を減らすことができる治療方法

◆ 母子保健総合医療センター

- 新生児や胎児に対する手術などの高度専門医療の提供
(新生児(生後28日以内)に対する手術件数 27年度 168件 [26年度 129件])
- 総合周産期母子医療センターとして安定的な周産期医療を提供
(母体緊急搬送受入件数 27年度 219件 [26年度 188件])
- 重篤な小児患者への対応拡大として、ICU4床を段階的に増床し(26年度:2床、27年度:2床)、高度専門医療を推進
(ICU延入院患者数 27年度 3,739人 [26年度 3,001人])